

興味ある画像所見を示した上顎洞内嚢胞の1例

藤木知一, 内田啓一, 長内 剛, 人見昌明,
深澤常克, 児玉健三, 和田卓郎

松本歯科大学 歯科放射線学講座 (主任 和田卓郎 教授)

上顎洞に嚢胞様X線像を示す病態は日常臨床において少なからずみられる。今回、右側上顎洞においてX線像上に明瞭な二重輪郭を示し、しかも大きく拡がった症例を経験したのでその写真を供覧する。

患者は32歳、男性で右側上顎洞部の腫脹にて来院した。

初診時は右側上顎第一大臼歯部の急性化膿性歯根膜炎の診断のもとに、根管治療を続けていたが口蓋根から排膿が持続したため、同部および上顎洞部を精査することになった。

X線検査所見：P-A, Waters X線写真にて右側上顎洞底部に3~5 mm厚の白線構造を有する単房性の球形、鶏卵大のX線不透過像がみられた(写真1)。パノラマX線写真および口内法デンタルX線写真上では、右側上顎第一大臼歯の口蓋根が根尖1/3よりX線不透過像内に入り、根尖はペン先状の吸収を示していた。また、第二大臼歯近心根もX線不透過像に沿って吸収を示していた(写真2)。同部を精査する目的でCT検査を施行

した。上顎軸位断層CT像(骨条件撮影)では右側上顎洞内に中程度濃度の病巣壁の拡がりが見られ、その内部は中空で空気様濃度を示し、辺縁は高濃度の二重輪郭を示していた(写真3)。同時に作成した3D-CT(3次元構成)画像においては、病巣周囲を覆う様に骨壁様造成のあるのが明らかであった(写真4)。

右側上顎洞内嚢胞の診断の下に、嚢胞摘出および上顎洞根治術を施行した。術後経過は良好であり、現在も経過観察を続けている。病理組織診断は歯根嚢胞であった。

単純X線写真やCT画像で見られる、上方外側の骨様輪郭は上顎洞底壁が挙上されたものと考えられるも、内側の骨様構造が何を示すのか画像所見としては不明である。

病巣の壁は骨様濃度の層と結合組織様濃度の層が混在し、肥厚した嚢胞壁の中にコレステリン顆粒などの石灰化物が見えているものと思われるが、このような多量の石灰化物形成に至った機序について疑問が残る症例であった。

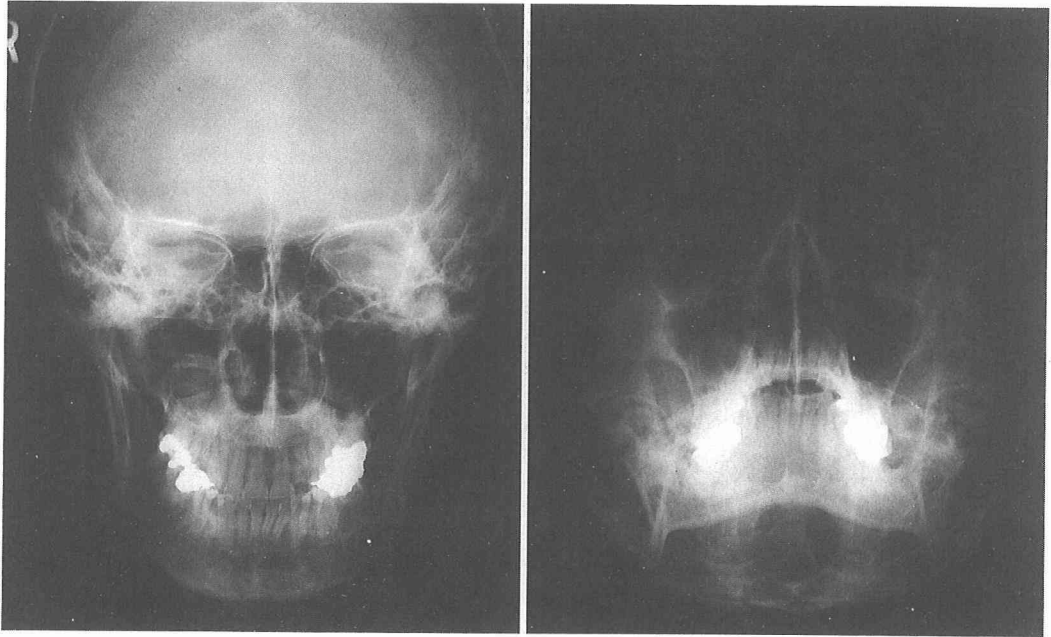


写真1：右側上顎洞底部に3～5 mm厚の白線構造を有する単房性の球形、鶏卵大のX線不透過像がみられる。

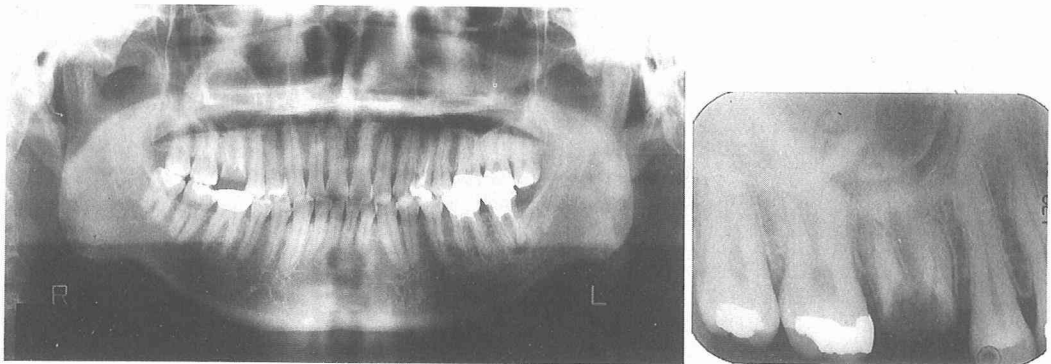


写真2：右側上顎第一大臼歯の口蓋根が根尖1/3よりX線不透過像内に入り、根尖はペン先状の吸収を示している。同部第二大臼歯近心根もX線不透過像に沿って吸収を示している。

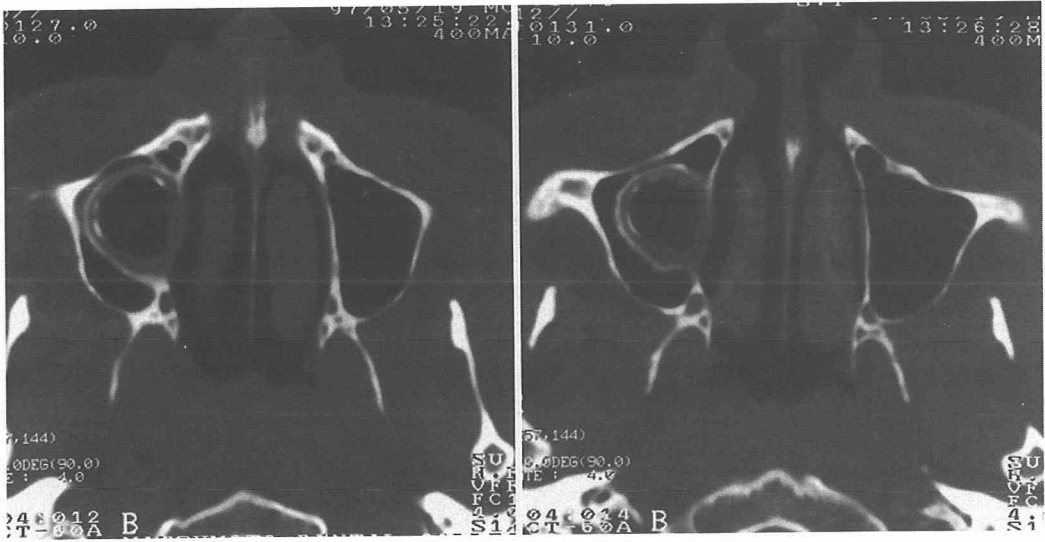


写真3：上顎軸位断層CT像（骨条件撮影）では右側上顎洞内に中程度濃度の病巣壁の拡がりが見られ、その内部は中空で空気様濃度を示し、辺縁は高濃度の二重輪郭を示している。

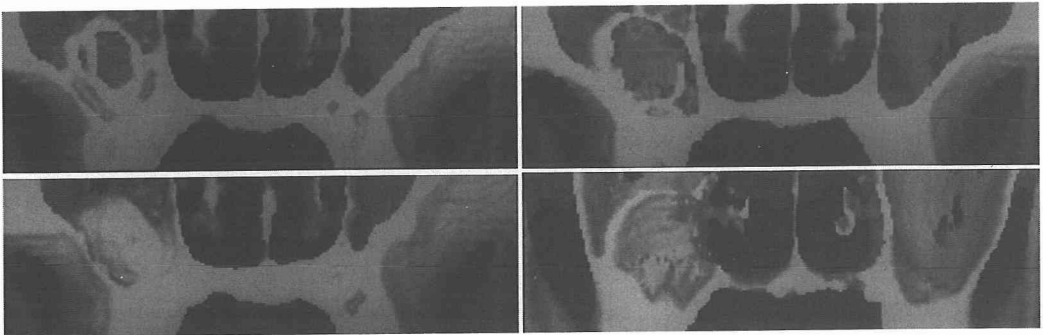


写真4：3D-CT（3次元構成）画像においては、病巣周囲を覆う様に骨壁様構造があるのが明らかである。